

来週の「売り物」記事はこれ



2011年7月29日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

水の事故に遭った場合の対処法

くらしナビA面 8月2日(火)

水難事故が増える季節です。万が一、事故に巻き込まれたらどうすればいいでしょうか。服を着たままおぼれた場合は、もがけば体力を消耗するだけ。水にうまく体を浮かせる方法やペットボトルを浮き輪代わりに使う技など、さまざまなサバイバル法を紹介します。



いきいき料理教室・夏ばて回復レシピ

くらしナビB面 8月2日(火)



暑い夏は食欲がなくなり、ついそうめんを済ませてしまうことも。今回は夏バテを解消し疲労回復を図る料理が焦点です。ビタミンが豊富で夏に威力を発揮するモロヘイヤを使った「モロヘイヤととろろの冷やしそうめん」など、ぜひ食卓で試してみてください。

「日・中・韓 平和絵本」 くらしナビA面 8月5日(金)

戦後66年となる今年、日本、中国、韓国の絵本作家が協力して作った全12巻の「日・中・韓 平和絵本」が共同出版されることになりました。言葉の壁や戦争観の違いを乗り越え、絵本史上初となるこの取り組みを紹介し、平和について考えてみました。



ロングインタビュー「時代を駆ける」

ヒマラヤからネット中継する登山家、栗城史多さん

8月2日から2週・10回



日本には世界でも一流のクライマーたちが多くいますが、その中に1人、異色の若者がいます。

栗城史多(くりき・のぶかず)さん、29歳=写真。本格的に登山を始めて2年半で、無酸素・単独で世界6大陸の最高峰をきわめてしまいましたが、それだけではありません。ヒマラヤ8000m級の世界最高峰に挑んでいる自らの姿をインターネットで生中継し、「冒険を共有、感動してもらおう」エンターテインメント登山とでも言うべき新領域を開拓したのです。

元ニートだったという栗城さんが山を始めたきっかけは、失恋だったといいます。小柄で優しげでエネルギッシュな青年の、人生と山を語ってもらいます。

夏の甲子園いよいよ開幕——被災地に「元気」届け

8月6日開幕

第93回全国高校野球選手権大会（朝日新聞社、日本高校野球連盟主催、毎日新聞社後援）は8月6日午前9時から阪神甲子園球場で開会式が行われ、15日間にわたる熱戦が幕を開けます。組み合わせ抽選は3日。東日本大震災の傷跡が残る中で開く今大会は、節電対策のため、第2～14日目までの試合開始を早めて午前8時とし、決勝も午前9時半開始となりました。期間中の甲子園球場では、被災3県の高校生が歌う大会歌「栄冠は君に輝く」が流されるなど、今春のセンバツ大会と同様に、震災復興への願いを込めての開催です。優勝争いだけでなく、被害の大きかった岩手、宮城、福島代表校の戦いぶりなども注目されそうです。熱戦の様子は、運動面などで生き生きとお伝えしていきます。



運動面企画「インサイド」

日本ラグビーの育て方 — W杯開幕1カ月前 8月2日から



ラグビーのワールドカップ（W杯）ニュージーランド大会は9月9日の開幕が迫ってきました。この大会で2勝を狙う日本ですが、課題になっているのは目先の勝利ばかりではありません。日本で初開催される19年W杯に向けて、日本ラグビーの土台を大きくし、ファンの拡大をする必要にも迫られています。8月2日から5回連載予定の運動面企画「インサイド」では、日本ラグビーが取り組む選手育成策や、集客プラン、普及への努力などを紹介します。

「なでしこジャパン」佐々木則夫監督

世界一の「掌握術」 夕刊特集ワイド面 8月1日（月）

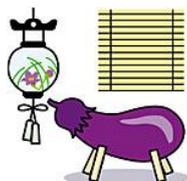
東日本大震災、それに続く福島第1原発の破滅的な事故によって、深い悲しみと絶望に打ちひしがれた私たちの国……。列島を覆う重苦しい「空気」を一気に打ち払ってくれたのが、サッカーの女子ワールドカップで見せた「なでしこジャパン」の「奇跡」の奮闘でした。なかでも、澤穂希（ほまれ）選手ら個性豊かな選手たちの心をつらつらつかんだ佐々木則夫監督＝写真＝の采配は際立ちました。オヤジギャグを連発して選手の心をほぐし、「女だから、男だから」という考えをはなから打ち捨てて指導する姿は、見る者に深い印象を与えました。その世界一の「掌握術」の秘密に、元女子代表監督でサッカー協会女子委員長の上田栄治さん、元「なでしこ」でテレビ解説者の大竹七未さんらの証言をもとに探りました。



「知りたいが分かる」がモットーの夕刊「特集ワイド」に、ご期待下さい。

シリーズ この夏、会いたい…

夕刊特集ワイド面 8月4日（木）から全10回



今年もまた、祈りの季節がめぐってまいりました。東日本大震災でおびたしい命が失われた<2011年夏>は、これまでになく「特別な鎮魂の月」となりそうです。もし、崇高な精神を持ち合わせた、あの賢者、時代のヒーロー、ヒロインが存命ならば、大きな悲しみに包まれ、先行きの見えない「今」を、どうとらえるのでしょうか。そして、私たちにどういふ言葉をかけてくれるのでしょうか……。

被災地でたびたび歌われた「上を向いて歩こう」で知られる坂本九さん（4日）、「むずかしいことをやさしく、やさしいことふかく」を心がけた作家、井上ひさしさん（5日）らのゆかりの人たちの話に耳を傾け、「この国はどこへ行こうとしているのか」を考えました。

「時代と格闘」する夕刊特集ワイドにご期待下さい。